

## 第 1 回 経営顧問会議議事概要

1 . 日 時 平成 18 年 4 月 5 日 ( 水 ) 15 : 00 ~ 17 : 10

2 . 場 所 日本原子力研究開発機構 東京事務所 第一会議室

### 3 . 出席者

( 委員 ) 有馬議長、内永委員、勝俣委員、住田委員、内藤委員、野口委員、  
野依委員、溝口委員、毛利委員、森脇委員

( 機構 ) 殿塚理事長、岡崎副理事長、中島理事、木村理事、石村理事、  
野村理事、野田理事、柳澤理事、三代理事、中村監事、富田監事

### 4 . 議 題

- (1) 開会挨拶並びに趣旨説明
- (2) 委員の紹介
- (3) 議長ご挨拶
- (4) 原子力機構の経営について
- (5) 原子力機構の経営課題について
- (6) 意見交換
- (7) その他
- (8) 閉会の挨拶

### 5 . 配付資料

- 1 - 1 経営顧問会議設置要綱
- 1 - 2 経営顧問会議委員構成
- 1 - 3 原子力機構の役員
- 1 - 4 原子力機構の経営について
- 1 - 5 原子力機構の概要
- 1 - 6 原子力機構の経営課題について

## 6 . 議事概要

### [ 経営全般について ]

人員・予算が漸減している中で「選択と集中」をしようとしているが、どういう選択があり、どういう集中があるのか、明確にする必要がある。安全確保と信頼確保を前提にした上で、経営として、今やるべきものを明確にして、戦略的に、ロードマップとして示すことが重要であり、予算の減少に歯止めをかける努力が必要である。欧米や中国では、エネルギー確保やセキュリティの問題に、国政のトップが積極的に取り組んでいる状況を踏まえ、機構としての対応を期待したい。

人員の合理化は、独法に課せられた必須の課題であるが、職員には合理化の全体像を示しつつ理解を求める必要がある。一方、研究開発法人は「人」が重要である。十分優秀な質を持った人材がいるのか、確保されているのか、養成されているのかが重要である。世界最高の研究者の投入に努めるべきである。

組織体制が一見して、難しいマネジメントシステムに見える。十分な検討が行われた上での組織設計と考えられるが、指揮命令系統や組織全体に共通なマネジメントシステムと組織全体が経営から見えるメカニズムが必要ではないか。

経営者が考えていることを、職員との間で、ひとつの価値観として共有しておかなければ、何がリスクで、何が重要かというような肝心なことを、共有化することが難しいと認識すべきである。このため、「議論」の前に、「職員との対話」を推進する必要がある。

課題解決の議論の時等は、常に、経営理念に立ち戻って、どうすべきなのか、議論するように、経営者がリーダーシップを発揮する必要がある。そのためには、日頃から経営理念を組織内に浸透させておくことが重要である。

これからアジア諸国において、原子力利用が拡大すると予測されるため、アジアからの留学生の技術教育について、原子力機構に期待する。

### [ 安全・安心に関する取組について ]

安全というのは技術開発とマネジメントが重要である。昨今、原子力技術特有の問題ではなく、一般工学のところでのトラブルが多く、この状況の分析や研究を行い、得られた知見を反映していけば、他の分野にも大いに貢献できるはずである。

社会から信頼を得るためには、まず、組織に対する地域社会からの信頼を得ることが重要であり、そのことを職員に徹底することが必要である。

[ 情報発信について ]

研究開発を行っている組織の事業内容は分かり難い。成果はなるべく数字にして示して理解を求め、信頼を得る努力を行っていくことが重要である。情報発信の基本は、説明対象の目線にあわせた資料作りや分かり易い説明を行い、もっと成果やメッセージが伝わるように努力することが必要である。

以 上